

歴史と感染症

順天堂大学医史学研究室助教

澤井 直

(聞き手 山内俊一)

ペロポネソス戦争時の発疹チフスの流行によるアテネの敗戦、ペストによる東ローマ帝国とパルティアの衰退とイスラム朝の拡大、モンゴル軍によりもたらされた中世欧州のペスト流行、第一次世界大戦とスペイン風邪、天然痘と藤原摂関政治…等、歴史を変えた感染症についてご教示ください。

<匿名>

山内 歴史を変えた感染症ということで、古代より大規模な感染症の発生で民族、国が滅びたといった大きな変革があったかと思います。もう一度これを見つめ直して、現在のコロナを含めて、今後の参考にしたいということです。

まず、歴史を変えたような感染症といいますと、どういったイメージでとらえたらよいでしょうか。

澤井 歴史を変えるというのは、その感染症がなかったら起こらなかったであろう事象と、実際に起きたことを比較し、それによって、歴史を変えたかどうかの評価されるわけですが、大きく3つのパターンがあり得るのではないかと考えています。

1つ目は有力者あるいは為政者が病気で死亡する。そのために短期的な影響が現れやすく、我々にとっても見えやすい。そういうものです。

山内 これは歴史の教科書で書かれるので、すぐ覚えられますね。

澤井 そうです。2つ目が、当時としては犠牲者が多くて、悲しむ人もたくさんいたものの、そういう大きな影響を当時与えたようには見えない。そのために影響が見えにくい。歴史を変えたかどうかの評価が難しいものになります。

山内 多くの方が亡くなったら、大惨事ではあるのですが、現代ほどには通信なり、いろいろな伝達手段がないから、歴史上は忘れ去られている、と

《アテネの疫病》J. FittlerによるM. Sweertsの油彩画のラインエングレービング作品



ということでしょうか。

澤井 そうですね。死亡率の低い現在と比べて、昔はかなり高かったですから、病気以外にもいろいろな原因で亡くなる方がいたわけで、一つの病気が歴史を変えたかどうか、なかなか見えにくいことがあります。

山内 3つ目は、どういったことでしょうか。

澤井 病気が歴史を変えるという点ではマイナスのイメージが強いと思うのですが、それを逆手に取って、プラスの影響を与えたというものもあると思います。

山内 これは衛生学、公衆衛生学の進歩といったものに関連すると考えてよいのですか。

澤井 そうですね。

山内 早速ですが、まず最初の、為政者、有力者、こういった方々の死亡に絡むといったことですが、知られているものとしてはどういったものが挙げられるのでしょうか。

澤井 有名なものとしては3つ思い浮かびます。一つはアテネの疫病といわれる紀元前5世紀頃の病気。もう一つがアントニヌスの疫病といわれる紀元後160年頃に起こった疫病。もう一つが8世紀の日本で起こった天然痘の流行です。

山内 1つずつうかがいますが、最初のアテネの疫病、これは具体的にどのようなものだったのでしょうか。

澤井 これはチフスだとする説が現在有力なのですが、アフリカからペルシャ、ギリシャと広がってきて、当時

戦争中だったアテネの有力な政治家が死亡する。それによって、アテネの兵力、あるいは国民を指導する立場の層が弱体化して、アテネの国力が低下し、最終的にはアテネは戦争に敗北してしまふ。そういうことが起こっています。

山内 スパルタが勝ったのですね。

澤井 そうですね。

山内 原因がチフスだろうというのは、最近では例えばDNAなどの解析技術も進んでいるようですが、かなり実証されつつあるものなのではないでしょうか。

澤井 かつては症状の記録からどんな病気だったかというのを類推していたのですが、亡くなった方の遺骨とか、そういうもののDNA解析が現在はいろいろな過去の疫病に対して行われていて、より科学的な推論が可能になっています。

山内 2つ目のアントニヌスの疫病ですが、これはどういったものでしょう。

澤井 これは現在では天然痘とする説が有力になっています。同じ時期に中国でも天然痘の記録があるので、ユーラシア大陸全体でその当時天然痘が広がっていたということから、天然痘が有力とされています。

山内 そうしますと、かなり大規模ですね。

澤井 そうですね。ただ、このアントニヌスの疫病と記録されているのは、当時のローマ帝国で広がったものです。

当時のローマ皇帝の一人もこの病気に罹患して死亡したと考えられています。

山内 やはり同様にして、軍や国力の弱体化、結局衰退を招いたと考えてよいのでしょうか。

澤井 そうですね。このアントニヌスの疫病は、ローマ帝国そのものが滅亡していく最初のきっかけといわれることもあります。たくさんの人が亡くなる中で、病気への不安、あるいは社会不安が起きて、人々はそれを信仰によって何とか救いを求めていきます。その中でキリスト教が影響力を増し、後にローマ帝国の国教となって、西欧のキリスト教文明を築いていくことになります。

山内 文化文明に影響を与えたということで、確かにすごいものですね。3つ目は日本のものでしたね。

澤井 そうです。日本では8世紀に天然痘が海外から入ってきたと考えられています。九州のあたりから東へ東へと進んで病気が広がっていくのですが、最終的には奈良の都に達して、当時の政治の有力者であった藤原四兄弟といわれる4人の命を奪っています。

山内 日本史の中でも有名な方々が亡くなられたのですね。

澤井 そうなのです。藤原鎌足から続く藤原家の栄華がいったん途絶えてしまうことになります。

山内 天然痘は日本の歴史の中でもしばしば出てくる病気の一つですが、

このあたりから日本にも定着してきたと考えてよいのでしょうか。

澤井 そうですね。この後、国内で定着して行って、多くの人は幼少期にかかって、生きながらえることができて、あばたができてしまう。ですから、「美目定め病」と江戸時代にはいわれています。

山内 2つ目の、影響が見えにくい、非常に多くの方が亡くなったけれども、いま一つインパクトが少ないという事例ですが、どういったものが挙げられるのでしょうか。

澤井 それには黒死病といわれた14世紀に大流行した病気、そしてナポレオンがロシア侵攻のときにナポレオンの軍に広がったチフス、あと20世紀の前半に起きたスペイン風邪、この3つが挙げられます。

山内 黒死病はあまりに有名ですが、どういったものなのでしょうか。

澤井 これは14世紀半ばにヨーロッパを襲ったもので、当時は黒死病という名前ではなかったのですが、なぜ黒死病といわれたかということ、後に「黒」というのが陰惨だとか、恐ろしいという比喩で使われるようになって、黒死病という名前です。

山内 非常に死亡率が高かったそうですね。

澤井 今まで1/3の人口が失われたといわれていたのですが、近年ではさらに多くの人が亡くなったのではない

かという研究があり、最近では50%前後の死亡率だったと考えられています。

山内 こうなると影響も甚大だったでしょうね。

澤井 たくさんの人が亡くなるということは、確かに当時の人にとっても大きな衝撃を与えたはずなのですが、一度の流行で社会が一変するような影響ではなく、当時すでに起こっていた変化を加速化する、そういう影響だったと考えられます。

山内 具体的にはどういったかたちになりますか。

澤井 農村社会の構造転換が起きたとよくいわれるのですが、実際には黒死病以前に農村社会が変化せざるを得ない状況ができていたと考えられています。黒死病は、その状況で減ってしまった人口を補うために変わらざるを得ない、そういう状況をつくったといわれます。

山内 あと、ナポレオンのロシア侵攻のときのチフスも結局のところ、これでロシア遠征が失敗したと見てよいのでしょうか、確かにこれや、スペイン風邪は、有名なわりに今日まで語り継がれていないところもありますね。

澤井 そうですね。スペイン風邪は、当時の世界の人口の1/3にあたる5億人もの人が感染して、1,700万~5,000万人の人が亡くなったと現在では推定されています。ですから、亡くなった数としては人類史上最悪のパンデミック

クなのですが、第一次世界大戦中に起きていることもあって、戦争のほうの記憶が人々には残っている。スペイン風邪のほうは忘れられていったといわれています。

山内 なるほど。

澤井 日本では第一次世界大戦は遠く離れた場所のことでしたが、直後に関東大震災が起こっていますので、そちらの悲惨な状況の記憶が上回ってしまっ、日本でもスペイン風邪はなか

なか記憶に残っていないですね。

山内 詳細は省略させていただきませんが、こういったものを乗り越えながら、衛生学、公衆衛生学、その実践も進んだのですね。

澤井 そうです。ですから、3つ目のプラスの影響というのは、過去のそういう悲惨な経験から学び、それが現在にもつながっていると思います。

山内 どうもありがとうございます。